

平成28年度夏期文部科学省インターンシップ受入れ計画

受入れ局課室名	研究開発局 開発企画課		
募集学校種	<input checked="" type="checkbox"/> 大学院 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 短期大学 <input type="checkbox"/> 高等専門学校 <input type="checkbox"/> 専門学校 <input type="checkbox"/> 高等専修学校 <input type="checkbox"/> 高等学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 問わない		
	(○がマークされている部分が希望学校種となります)		
受入れ期間	7月～8月 (上記期間中で1人につき、2週間)	受入れ人数 (期間内の合計受入れ数)	1人
受入れ条件	ワード、エクセル等の基本的なパソコン操作ができること。		
実習内容	<p>研究開発局は宇宙、原子力、海洋や環境エネルギー、地震・防災などの科学技術分野の事業を担当している課が属しており、これらの施策を実施するために必要となる、関係機関との連絡調整業務や会計実務などを体験して頂きます。</p> <p>この他、国税の中で唯一の目的税を財源として原子力施策を実施しているエネルギー対策特別会計の仕組みや実施事業の概要説明を受けたのち、会計の実務に携わって貰うことを通して、施策の実施に伴って生じる業務を体験して頂きます。</p>		
受入れ局課室紹介	<p>開発企画課では、局内の宇宙、原子力、海洋や環境エネルギー、地震・防災などの大規模な研究開発を推進する各課のとりまとめを中心に業務を行っており、文科省の中でも数少ない特別会計を担っている部署でもあります。個々の事業を直接担当している訳ではありませんが、事業全体を総括的に把握することができます。</p>		
受入れ局課室からの一言	大規模な研究開発を担う局をとりまとめる業務とはどのようなものなのかご関心のある方の参加をお待ちしております。		
過去の参加者の声	<p>明るく、活気にあふれた職場であった。国会対応の様子を間近で見たり、会議を傍聴することにより、文部科学省で働くことのイメージを持つことができた。課内での成果報告を通じて、職員の方からたくさんのアドバイスをいただいた。</p>		

受入れ局課室名	研究開発局 地震・防災研究課		
募集学校種	<input checked="" type="checkbox"/> 大学院 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 短期大学 <input type="checkbox"/> 高等専門学校 <input type="checkbox"/> 専門学校 <input type="checkbox"/> 高等専修学校 <input type="checkbox"/> 高等学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 問わない		
	(○がマークされている部分が希望学校種となります)		
受入れ期間	7月11日～9月16日 (上記期間中で1人につき、1～2週間)	受入れ人数 (期間内の合計受入れ数)	1人
受入れ条件	地震・防災分野に関する政策に興味のある学生(特に地震分野)		
実習内容	<p>我が国は、地震や津波、火山噴火、台風など自然災害が多く発生する地域に位置しており、近年においても、熊本地震や東北地方太平洋沖地震、広島土砂災害や御嶽山の噴火等により多くの被害が出ています。地震・防災研究課では、こうした自然災害による被害の軽減を目指した研究開発を推進しています。一方、このような研究開発を通じて得た知見や、研究開発の現状について、一般の国民に正確な情報を提供し、理解してもらうことは、一人一人の国民の防災意識を高めるためにも非常に重要です。インターンシップでは、主に地震・防災分野の広報の在り方について検討してもらうことを軸に、地震・防災分野に関わる業務の補助を通して、行政の仕事を経験してもらいます。</p>		
受入れ局課室紹介	<p>地震・防災研究課では、地震や津波、火山噴火、台風、豪雪などの自然災害による被害の軽減を目指した研究開発を推進しています。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震調査研究推進のための方針を立案し、地震の発生確率・規模の予測精度向上や、地震発生メカニズム解明に向けた調査研究を実施しています。 ・想定される地震が発生した際の社会的・経済的被害が大きい南海トラフの地震や首都直下地震等を対象とした大規模な調査観測・研究プロジェクトを実施しています。 ・防災については、実大三次元震動破壊実験施設(E-ディフェンス)を利用した耐震技術に関する研究のほか、様々な自然災害に対応した防災科学技術の研究開発を推進しています。 <p>地震・防災研究分野関連の業務に興味のある方の参加をお待ちしています。</p>		
受入れ局課室からの一言	地震・防災分野の行政に興味・関心のある積極的な学生を歓迎いたします。		
過去の参加者の声	<p>様々な機関からの出向者が多く、自由に発言できる雰囲気だった。興味のある他の課の職員の方からお話を伺うことができた。意見交換やフィールドワークなど短期間で密度高く実習を行い、政策立案の現場を知ることができた。</p>		

平成28年度夏期文部科学省インターンシップ受入れ計画

受入れ局課室名	研究開発局 海洋地球課		
募集学校種	<input checked="" type="checkbox"/> 大学院 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 短期大学 <input type="checkbox"/> 高等専門学校 <input type="checkbox"/> 専門学校 <input type="checkbox"/> 高等専修学校 <input type="checkbox"/> 高等学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 問わない		
	(○がマークされている部分が希望学校種となります)		
受入れ期間	7月11日～9月16日 (上記期間中で1人につき、2週間程度)	受入れ人数 (期間内の合計受入れ数)	1人
受入れ条件	文部科学行政(特に海洋科学技術関係の業務)に興味のある方		
実習内容	海洋地球課で行っている以下のような幅広い業務に触れていただくことを想定しています。 ・海洋・南極分野の研究開発の推進に関する政策の企画・立案 ・国際的な枠組における研究開発計画の推進、関係省庁・機関との打合せ ・施策情報の発信(HP等)、シンポジウムへの対応 等 具体的な実習内容については、実習生の希望を踏まえて決定いたします。 また、業務日程や実習者の希望に応じて(研)海洋研究開発機構等の施設見学等を行う可能性もあります。		
受入れ局課室紹介	我が国は、世界第6位といわれる広大な領海と排他的経済水域を有しています。そこには黒潮をはじめとする4本の海流、多様な生物群集、無数の海山群、そして世界最古の海洋底など、世界の海洋の縮図が存在しています。このような海を知り、活用していくことは、我が国が海洋国家として発展していくために必要不可欠なことと言えるでしょう。また、海洋の諸現象の解明は、地球環境問題の解決、海溝型巨大地震への対応、海洋資源の開発など、我が国のみならず今後の人類の発展に深く関わる重要な課題の解決を図るためにも必要です。 海洋地球課では、海洋分野における研究開発を海洋立国日本の重要な使命と位置づけ、国立研究開発法人海洋研究開発機構や国立極地研究所、国内外の大学・研究機関等と協力しながら、様々な課題に取り組んでいます。 今回のインターンシップでは、当課の様々な業務の一部を体験していただきます。地球深部探査船「ちきゅう」、有人潜水調査船「しんかい6500」、「じんべい」「おとひめ」「ゆめいるか」の探査三兄弟、メタンハイドレートやレアアース等の科学研究、北極の氷、南極の氷、深海生物、ダイオウグソクムシ、メンダコなどに興味のある方の御応募をお待ちしております。		
受入れ局課室からの一言	海にロマンを感じる積極的な方の参加を歓迎します！		
過去の参加者の声	職員同士で業務の質問などが活発にされていて、相談しやすい環境だと感じた。施設見学や会議傍聴などに参加できた回数が多く、大学での学習と社会との繋がりを学ぶことができ、充実感が得られた。		

受入れ局課室名	研究開発局 環境エネルギー課		
募集学校種	<input checked="" type="checkbox"/> 大学院 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 短期大学 <input type="checkbox"/> 高等専門学校 <input type="checkbox"/> 専門学校 <input type="checkbox"/> 高等専修学校 <input type="checkbox"/> 高等学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 問わない		
	(○がマークされている部分が希望学校種となります)		
受入れ期間	8月29日～9月16日 (上記期間中で1人につき、2週間)	受入れ人数 (期間内の合計受入れ数)	1人
受入れ条件	・環境エネルギー科学技術に関する政策に興味を有すること ・理工系学部又は大学院研究科に所属していること ・Word・Excel等、パソコンの基本操作ができること		
実習内容	具体的な実習内容については、参加者の希望等も考慮して計画・決定しますが、基本的には、環境エネルギー科学技術に関する政策の企画・立案や、国際枠組みにおける諸外国との調整、各種会議の開催等による関係省との調整、施策情報の発信等、環境エネルギー課の業務に触れていただき、環境エネルギー科学技術に関する政策について理解を深めていただきます。		
受入れ局課室紹介	環境エネルギー課では、地球温暖化による気候変動問題等を解決するため、温室効果ガスを削減しつつ、持続的な発展を可能とする「低炭素型社会」への転換を目指した研究開発を推進しています。 具体的には、気候変動に関する予測技術や影響評価技術に係る研究開発の推進や、それらを通じた「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」をはじめとした国際枠組み及び我が国における気候変動への適応策の導入への貢献等に関する業務を行っています。 また、革新的太陽電池等の再生可能エネルギーに係る研究開発や、次世代蓄電池に係る研究開発の推進等に関する業務も行っていきます。		
受入れ局課室からの一言	環境エネルギー課の業務に関心があり、意欲のある積極的な方の参加を歓迎します。		
過去の参加者の声	担当の方が真摯に話をしてくださり、こちらの質問にも丁寧に答えてくださった。普段は聞けない有識者の話を聞いたり、最先端技術を見たりすることができ、充実した経験になった。		

平成28年度夏期文部科学省インターンシップ受入れ計画

受入れ局課室名	研究開発局 宇宙開発利用課		
募集学校種	<input checked="" type="checkbox"/> 大学院 <input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 短期大学 <input type="checkbox"/> 高等専門学校 <input type="checkbox"/> 専門学校 <input type="checkbox"/> 高等専修学校 <input type="checkbox"/> 高等学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 問わない		
	(○がマークされている部分が希望学校種となります)		
受入れ期間	9月5日～ 9月16日 2週間	受入れ人数 (期間内の合計受入れ数)	1人
受入れ条件	「宇宙」に興味・関心があり、将来、行政機関等での仕事を希望している方 (専門知識は必要ありません。)		
実習内容	研修生の希望を最大限考慮しながら、新型基幹ロケットであるH3ロケットやイプシロンロケット、次期技術試験衛星や先進レーダ衛星、我が国初の重力天体への着陸を目指す小型月着陸実証機(SLIM)や国際宇宙ステーション(ISS)計画など、我が国における宇宙開発利用政策の最前線に関わる業務のサポートを行っていただきます。		
受入れ局課室紹介	宇宙開発利用課では、文部科学省の所掌する宇宙の開発、利用等に関する宇宙政策に関する仕事をしています。具体的には、日本における宇宙の開発、利用等に関する新規プロジェクト等の企画立案や予算編成を行うとともに、宇宙航空研究開発機構(JAXA)を所管し、H3ロケット、H-IIA、H-IIBロケット、イプシロンロケット等のロケット開発や、先進レーダ衛星、先進光学衛星、光データ中継衛星等の衛星開発等のプロジェクト推進に関し、国の立場としての業務を実施しています。また油井宇宙飛行士をはじめ多数の宇宙飛行士が活躍している国際宇宙ステーション(ISS)計画等に関する活動を通じ、NASA等との国際協力業務なども行っています。 「宇宙」に関わる業務に興味のある方の参加をお待ちしています。		
受入れ局課室からの一言	「宇宙」というフロンティアに関する業務は常に困難な課題に立ち向かう必要があります。困難な課題への対応を学ぶことで自身の将来の可能性を広げたい！という意欲にあふれる方をお待ちしています！！		
過去の参加者の声	2週間で10人以上の課員の方とお話する機会をいただき、これまでの仕事内容や文部科学省に入省されたきっかけ、行政官として必要な資質などを聞くことができたのが、とても有意義だった。また、施策提案の機会を頂き、自分の考えを相手に納得してもらえるように説明する良い練習の機会となった。		

受入れ局課室名	研究開発局 研究開発戦略官(新型炉・原子力人材育成担当)付		
募集学校種	<input type="checkbox"/> 大学院 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 短期大学 <input type="checkbox"/> 高等専門学校 <input type="checkbox"/> 専門学校 <input type="checkbox"/> 高等専修学校 <input type="checkbox"/> 高等学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 問わない		
	(○がマークされている部分が希望学校種となります)		
受入れ期間	7月11日～ 9月16日 (上記期間中で1人につき、1～3週間)	受入れ人数 (期間内の合計受入れ数)	2人
受入れ条件	特になし(専門的な知識や技術は必要ありません。)		
実習内容	研究開発戦略官(新型炉・原子力人材育成担当)付では、以下のような業務に触れていただきます。 ①高速増殖炉「もんじゅ」をはじめとする核燃料サイクル技術の研究開発の推進に関する政策の企画・立案 ②原子力分野に携わる人材の育成に関する政策の企画・立案 ③上記に係る業務として関係機関との打合せ、資料の作成、会議の準備、HPでの情報発信等を行う		
受入れ局課室紹介	研究開発戦略官(新型炉・原子力人材育成担当)付では、核燃料サイクル政策及び原子力人材育成に関する業務を行っています。我が国のエネルギー政策では、ウランなどの資源の有効利用、放射性廃棄物の発生量とその有害度低減の観点から核燃料サイクルの推進を基本方針としています。使用済み燃料から使った以上の燃料を生み出すことができる高速増殖炉「もんじゅ」をはじめとした核燃料サイクルに関する最先端の研究開発に、関係機関と協力しながら取り組んでいます。 また、原子力施設の安全向上や、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉等の課題へ対応するためには、技術開発はもとより、それを行う人材が必要です。産業界や大学などと連携を図りながら、将来の原子力を支える人材をどのように確保していくのか、育成していくのかといった検討をしています。		
受入れ局課室からの一言	インターンシップ参加への意欲がある積極的な方からの応募をお待ちしています！！		
過去の参加者の声	課の中に机を用意してもらったり、会議の準備や傍聴の機会を頂いたりすることを通じて、実際の業務を近くで感じる事ができたのはとても貴重な体験であった。職員の方にインタビューをする機会をたくさん頂き、今後の進路選択の参考になった。		